

Wilfried Jacobs

ウィルフリッツ ヤコブス

ベルギーのロイヤルバレエスクールアントワープでバレエの教育を受ける

1995 年 3 月よりドイツのカールスルーエ Badisches Staatstheater(芸術監督ジェルミナル・カサド)入団

1998 年 8 月から 2007 年 9 月まで、日本でゲストダンサー、振付、講師として活動

2006 年アメリカのジャクソンで開催されたIBC で、フィンランド国立バレエ団元芸術監督のディナ・ビヨルンよりバレエ団の入団の誘いを受ける

2009 年 10 月プリンシパルに昇格

2013 年 8 月より、フィンランド国立バレエ学校の校長に就任。同時にプリンシパルダンサー、ボーイズクラス担当講師として活躍。そして数多くのスクール作品を振り付け手がける

2016 年 12 月フィンランド共和国より「フィンランド獅子勲章騎士章」授章

2017 年春、HAMK(Häme University of Applied Sciences)より国際専門教師として卒業

2019 年 より、フィンランド国立バレエ団主催のインターナショナルサマー講習会担当

2020 年 9 月フィンランド国立バレエ団引退

ベルギーへ拠点を移し、アーティスティックアドバイザー、コンサルタントとして活動

ダンススタジオアラベスクの指導にもあたる

ロイヤルバレエスクールアントワープ、ジュニアバレエアントワープ、フランドルバレエ団等ゲスト講師として招かれる

2021年アントワープ王立音楽院バレエ科ゲスト講師

2022年8月MOSAバレエスクールガリエージュに開校し教頭に就任



上: Onegin (John Cranko) with Edita Raušerová

左: Scheherazade (Kenneth Greve) with Julie Gardette

下: Manon (Sir Kenneth MacMillan)

Picture credit: Sakari Viika

